

長野中央病院

だより

しなのさ



■発行人／山本 博昭 ■編集／長野中央病院広報委員会

特集

長野中央病院 小児科

こどもや親の心に寄り添い、
そしてレベルの高い診療を

診察室に隣接する「発達相談室」

気軽に訪ねられる相談窓口として

NEWS & INFORMATION

わたしのまちのお医者さん

- 医療法人 片桐内科クリニック
- 医療法人 きし整形外科

こどもや親の心に寄り添い、 そしてレベルの高い診療を

総合病院ならではの高度な設備機器と専任スタッフが揃った診療体制に、かかりつけ医のような親しみやすさを。当院の小児科はかねてより、病院とクリニックの特長を兼ね備えた貴重な存在として、こどもたちの診察・治療にあたってまいりました。

風邪やケガの治療から入院や手術が必要な急性期医療の提供はもちろん、早くから小児専門の発達相談員を配置し、ご家族の不安解消や課題解決にも積極的に取り組んでいます。

真っ先に駆け込める、かかりつけ医としての小児科

みなさんは“病院の小児科”にどのような印象をお持ちですか？お子さんが大病でもしない限り、診てもらえないのでは？と思っていませんか？

近年、かかりつけ医（クリニック）と総合病院との間で医療の役割分担が進められていることもあり、病院の小児科は入院や手術が必要な時だけ行く場所というイメージが浸透しているようです。しかし、当院の小児科は違います。小児科医の番場副院長によれば、「病院とクリニックのちょうど中間にあたる存在」とのこと。科としてのスタンスと体制における特長について、詳しく語っていただきました。

「病院」の小児科ですが、風邪・ケガ・湿疹もしくは相談のために来院していただくのが当院の小児科です。何かあった時に真っ先に駆け込んでいただく、かかりつけ医として頼ってほしいですね。もちろん、普段のかかりつけ医からの紹介もお受けします。当院小児科の医師たちは、クリニックの医師と同様に毎日外来患者さんを診察し、自ら検査も行っています。場合によっては、内科や外科など他の診療科に協力を仰いで治療に全力を注ぎます。「総合病院として精密検査や治療を提供できることも利点です。クリニックに近いスタンスながら病院が有する機器や技術を駆使することも可能なので、患者さんのメリットは大きいと思います」と、番場副院長も胸を張ります。

次代を担うこどもたちの健やかな成長を支える

現在 小児科を率いている番場副院長と当院との出会いは、副院長が卒業後研修を前にした学生時代でした。前任の野々村医師が、小児科に興味のある学生がいると耳にし、何と“ラブレター”を送ったのです。しかも何度も。「小児科の楽しさ、子育て支援の大切さなど、日々の病院の様子が綴られていました。そんなことをされたら断りにくいし、小児科に進みたかったので他を選ぶ理由もなくなっちゃって…(笑)」。

こうして野々村医師の思惑通り、卒業後初期研修で当院にやってきた番場副院長。「当時からすでに、ただこどもたちの不調を治せばいいという姿勢ではなく、悩みや不安を解消しよう、ちょっとした相談事にも応じようというスタンスでした。そこに惹かれたのだと思います」。

背景 には、社会の宝としてこどもたちの健やかな成長を支えたい、という医師や看護師たち全スタッフの思いがあります。まだ大人の支えを必要とするこどもの場合、体の不調はさまざまな要因によって引き起こされています。しかし、本人にも因果関係が理解できなかったり、状態をうまく説明できなかつたりして、時にご家族にまで混乱が見られることも少なくはありません。

「だからこそ、」患者さんやご家族と向き合う際、病気だけを診るのではなく【人】を見ることを意識しています」と、力を込めます。

長野中央病院副院長
小児科部長
番場 誉医師

発達相談員など専門スタッフが揃う充実の体制

小児科のもうひとつの特長として、小児専門の各分野の専門家が揃っていることが挙げられます。特に1980年頃の小児科開設当時、発達相談員の常駐は大変珍しいことでした。相談員は主にお子さんの発達や心の状態について不安や疑問の相談を受けています。これは、前任医師が掲げた、「こどもの全面的な発達を支えよう」というコンセプトに基づいています。

多くの専門職、つまり医師だけでなく、看護師・栄養士・リハビリスタッフ・薬剤師など、様々な専門職が当小児科の診療に関わっています。日常的に病気の治療や家庭での子育てを支援する中でそれぞれが専門職として信頼されること、そしていつでもお互いの顔が見えて連携ができることが、こどもや親の様々な希望に応えることのできるチームとして大切だと考えています。そのために、病気の予防から治療まで、根拠と経験に基づいて安心・安全な医療を提供するための研鑽を常に心がけています。

10年20年後に 社会の主役へと成長するこどもたちと彼らの成長を間近で支えるご家族。当院の小児科は、みなさんの心身の健康を支えるという誇りを胸に、今後も身近な“かかりつけ医”として真摯に取り組んでまいります。



診察室に隣接する「発達相談室」

気軽に訪ねられる相談窓口として



当院の小児科待合室内には「発達相談室」があり、臨床心理士であり発達相談員でもある三宅明於さんが常駐しています。「発達相談室」は、ご家族からお子さんの発達・成長について気になっていることをお話いただく場であり、お子さん自身が学校や家族、友だちについての悩みを話す場でもあります。相談員は、ご家族やお子さん自身との話や遊びを介しての言動から状態を把握し、それぞれ必要に応じたカウンセリングや育児相談、発達や知能の評価、心理検査などを行っています。



臨床心理士／発達相談員
三宅 明於さん

お子さん、特に乳幼児期の発達・成長は、個人差もありいろいろなことが気になるご家族も多いものです。また、小学生以上のお子さんであれば、お子さん自身が、学校などでうまくいわずに悩んでいることもあります。「どこに相談したらいいか迷ったり、不安を感じた時は気軽に声をかけてください」と、三宅さんは言います。

当院には、他にも小児担当の言語聴覚士、理学療法士、作業療法士がおり、訓練等が必要な場合はすぐに連携を図ることができます。また、学校や他の医療機関など関係各所とのネットワークも構築されていますので、院内で解決できない問題があれば橋渡しを行い、細かなフォローを行っています。しかし、相談室を訪れること自体に抵抗を感じる方もいらっしゃるかもしれません。「保育園や幼稚園、学校からの紹介で来院される方が多いですね。ほかにも、体の不調で診察を受けたところ、お母さんが不安や悩みを口にされたのをきっかけに相談室にもいらっしゃったり、医師が診察をして発達のチェックや知能検査が必要と判断することもあります。

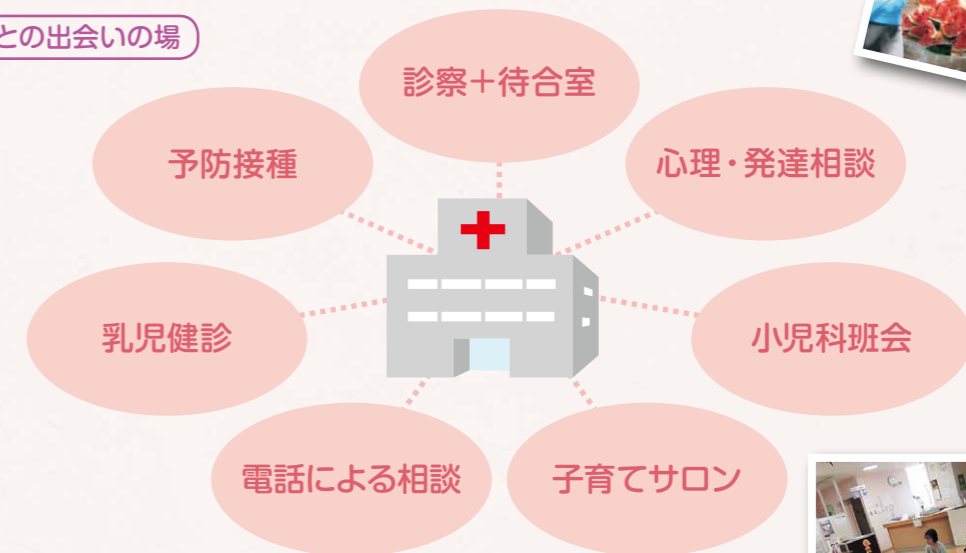
相談を受けるということは、お子さんやご家族が直面している苦しみに共に向き合うということです。それでも三宅さんは、こどもたちの変化や成長を目の当たりにする幸せや喜びを感じているそうです。「私と話すだけでも、多少なりとも何かが良い方向に進むかもしれません。お子さんもご家族もくれぐれも1人で頑張り過ぎないで！と伝えたいです。」

長野中央病院の子育て支援

- ◆こどもの成長発達についての支援
- ◆子育ての不安についての支援
- ◆親の仲間作りの支援
- ◆親と子の遊びの情報提供



親子との出会いの場



臨床心理士が子育て支援に関わるメリット

- 不安をもった親が気軽に相談できる → 育児環境等を把握しやすい
- 発達（身体、運動、社会性、言語…）を継続的にみることができる
- 他機関との連携が図りやすい

子育て支援以外の臨床心理の仕事は？

- 心理・発達相談
- 就学前のこども：言葉がおそい、落ち着きがない、園になじめない、人見知りが多い…
- 小・中・高校生：落ち着きがない、忘れ物が多い、勉強についていけない、友達とトラブルが多い、なんとなく体調が悪い、学校に行けない…

臨床心理士とは？

「臨床心理士」とは、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて、人間の“こころ”の問題にアプローチする“心の専門家”です。

日本には心の問題に取り組む職種として、心理カウンセラー、サイコセラピスト、心理相談員などの名称で呼ばれる人々がいますが、それぞれに明確な資格があるわけではありません。それに対して「臨床心理士」は、文部科学省の認可する財団法人日本臨床心理士資格認定協会が実施する試験に合格し、認定を受けることで取得できる資格です。2017年からは国家資格になる予定です。

News

長野中央病院で開催した行事やイベントをご紹介します。

2015
10

10月4日
2015年病院祭「ささえあい祭り」



10月10日
Nagano Ablation Symposium 2015

10月25日
ながの肝臓友の会 総会・肝臓病教室

10月26～30日
TSB放映 奥さまはホームドクター
「機能性ディスペプシア」 小島英吾医師

10月28日
全職員対象 医療安全学習会

10月29日
高校生1日看護師体験

2015
11

11月1日
震災時総合訓練

11月6日
全職員学習会「民医連のホスピタリティ」

11月9日
全職員対象 医療安全学習会「患者確認ルール」



11月14日
世界糖尿病デー ライトアップ

11月14・15日
りんどう会 一泊旅行

11月15日
ICLS (蘇生トレーニング)

11月17・20日
高校生1日看護師体験

11月20日
長野市救急隊×長野中央病院 合同救急症例検討会

11月24日
ながの肝臓友の会 お茶のみサロン

11月27・28日
第3回民医連循環器LIVE

2015
12

12月6日
外国人健診

12月8日
若看学習会「人工呼吸器」

12月17日
リハビリ病棟望年会

12月20日
JMECC (日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会)

12月22日
保険診療学習会

12月26日
SBC放映「心臓病の治療は今 長野中央病院のとりくみ」

Pick Up!

10月25日
ながの肝臓友の会 総会・肝臓病教室



本会は、肝臓病(慢性肝炎、肝硬変、肝癌)患者がお互いに助け合い、励ましあいながら病気と付き合っていくことを目的に結成されました。そして、ウイルス性肝炎、肝臓病の克服のために正しい知識の学習や交流会などを行っています。

活動内容は、2ヶ月に1回のお茶のみサロン、4月にお花見会、毎年6月には温泉交流会、9月頃総会・肝臓病教室、自分達の願いを届けるために行政との懇談や国会請願活動など多種多様な活動を行っています。

毎年行っている温泉交流会では、長野中央病院の松村真生子医師による医療講演会があり、昼食交流会後はゆっくりと温泉につかり、充実した1日を過ごしています。

総会・肝臓病教室は昨年の10月25日(日)、長野市生涯学習センターにて行いました。

2014年度活動報告、会計報告、2015年度活動方針、会計予算、役員改選などを提案し無事に議決されました。

その後肝臓病教室と個別相談会が行われ、肝臓病教室では「B型、C型肝炎の新薬、最新治療を学ぶ」と題して信州大学医学部内科学第二講座准教授松本晶博医師に講演いただきました。肝臓病教室終了後千曲中央病院の宮林千春医師も加わり、お二人の医師に個別相談をしていただきました。

この総会で「長野ウイルス性肝炎友の会」から「ながの肝臓友の会」へ会の名称変更が承認されました。ながの肝臓友の会はウイルス性肝炎の患者さんだけでなく、肝臓病全般の患者さん誰でも入会が出来ます。悩みや知識を共有し、一緒に病気を克服していきませんか。



11月1日
震災時総合訓練

昨年に引き続き、病院機能の維持と迅速な傷病者対応に移行できるよう訓練を実施しました。今回の訓練では模擬傷病者に対する1次トリアージも行いました。トリアージとは、多数の傷病者を重症度、緊急度によって分類し、治療や搬送の優先順位を決めることであり、救助、応急処置、搬送、病院での治療の際に行います。訓練、訓練実施後の振り返り中で、トリアージ場所、搬送経路、人員などの確認・検討を行いました。今後、更なる災害対応力の強化に向けた取り組みを進めます。



12月8日
「人工呼吸器」をテーマに
若手看護師主催の学習会

卒後1～3年目の看護師を対象に、「人工呼吸器」をテーマとした学習会を開催しました。主催は同じ若手看護師で組織された若看委員会です。

学習会では委員が人工呼吸器のアラームの種類と原因、対応方法を説明し、ゲストとして臨床工学技士が機器の設定を講義しました。

1時間ほどの学習会でしたが、「分かりやすかった」「呼吸器の使い方を改めて確認できた」などの感想が寄せられ好評でした。終了後も臨床工学技士に質問している職員もあり、若手看護師の熱心さが感じられる学習会でした。



職場紹介

こどもたちにやさしい小児科に

当院の小児科外来は、靴を脱いで入って頂くスタイルです。冬は床暖房で暖かく、季節の飾りや本やおもちゃもあり、こどもたちにやさしい外来になるよう心がけています。

小児科外来の活動は、大きく分けると一般診療、乳児健診や予防接種などの保健活動、子育てサロンや班会などの子育て支援活動の3本立てです。

一般診療では、3人の医師が担当し小児に関する様々な疾患に対応しています。風邪や急性胃腸炎などの急性期の診療はもちろん、食物アレルギー、夜尿症、低身長などの相談や検査も行っています。思春期のお子さんによくみられる自律神経の不調についての相談にもなっています。

乳児健診では、医師、理学療法士、栄養士、看護師、そして発達相談員の多職種が担当し、それぞれの専門的立場から一人一人の赤ちゃんの発育や発達を丁寧にみています。お母さんの悩みが解消して、来てよかったなあ、と思っただけの乳児健診をめざしています。予防接種は、近年ワクチンの種類が増え、大変複雑になっています。どのワクチンをいつ受けたらよいかの相談にも応じています。

また、子育て支援活動として、月1回の子育てサロンを行い、子育てにおける悩みの相談や、お母さん同士の交流の場としてご利用いただいています。年に4回の班会では、歯科医師による講演や、夏には戸隠へのデイキャンプなど多彩な活動も行っています。

このように、また来なくなる小児科をめざしてスタッフ一同努力を重ねています。



がんばったごほうびを手作り

このコーナーでは日ごろ連携させていただいている医療機関を紹介します。

医療法人 片桐内科クリニック



院長
片桐 昌尋 先生

私は昭和62年に金沢大学医学部第一内科を卒業し、北陸三県の日赤や市民病院に勤務して、一般内科、腎・高血圧、糖尿病内科等を担当しました。その後、神奈川県立がんセンターの消化器内科で胃カメラ・大腸カメラの経験を積みました。

故郷の長野に帰り、開業前の2年間、長野中央病院に内科医としてお世話になりました。その当時のつながりで、先生方には、今でもわがままなお願いをしたり、何かとお世話になっております。

平成14年の開業当初は、檀田通りもまだ開通しておらず、患者様もわずかでしたが、少しずつ地域の皆様に親しんでいた、13年目を迎えました。

高血圧・糖尿病・一般内科疾患のほか、胃カメラにもリピーターが多く、なるべく短時間で苦痛の無いよう心掛けて実施しております。また、在宅医療にも取り組んでおります。

院内には、絵画や植物などを多く配して癒しの空間をめざし、職員もできるだけやさしい対応ができますように、配慮しているつもりです。

これからも、地域の皆様の医療や介護の問題を、気軽に相談できる「かかりつけ医」として、長野中央病院とも連携をはかっていく所存です。どうぞよろしく願いいたします。



医療法人 片桐内科クリニック

- 診療科目 / 内科・消化器科
- 所在地 / 長野市上松4-33-7
- TEL / 026-215-1900
- 診療時間 / 【平日】AM8:30~12:00、PM3:00~6:00
【土】AM8:30~PM1:00
- 休診日 / 木曜と土曜の午後・日曜・祝日

医療法人 きし整形外科

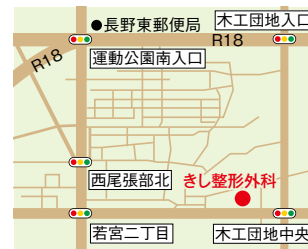


院長
岸 正朗 先生

私は昭和63年に旭川医大を卒業し、直ちに信大整形外科に入局いたしました。その後、依田窪病院、豊科日赤（現安曇野日赤）、長野県身障者リハビリテーションセンター、長野市民病院で勤務した後、平成13年9月きし整形外科を開院し現在に至っております。

信大時代、長野中央病院にアルバイトでお世話になったことがあります。その頃中央病院の売店では煙草を売っておりませんでした。今から思えば患者さんを第一に考えての先駆的な試みの一つだったのでしょうか。そうした姿勢は現在にも引き継がれているようで、MRIなどの高額機器の更新も積極的に行われています。当院の患者さんも最新のMRIで検査を受けることができ、治療方針の決定に非常に役立っており感謝致しております。また、土曜日にも外来診療があるので、手術の必要な外傷の患者さんなど週末にも紹介することができて、この点でも非常に感謝致しております。

当院は昭和通りを東にまっすぐ進んだ木工団地の入り口にあります。100㎡を超す広くて明るいリハビリ室に、ウォーターベッドや低周波治療器など多くの物理療法の機械を揃え、さらに理学療法士2名を置いてリハビリの充実にも力を入れております。また患者さんには現在の状態をなるべく正確にきちんとお伝えするように努力しております。そしてご本人のご希望を伺い、手術をしたほうが良いとなれば積極的に病院に紹介しています。安心して受診していただければ幸いです。



医療法人 きし整形外科

- 診療科目 / 整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科
- 所在地 / 長野市北長池山王北沖1834-1
- TEL / 026-244-3777
- 受付時間 / 【平日】AM8:30~11:30、PM2:30~5:30
【土】AM8:30~11:30
- 休診 / 水曜と土曜の午後・日曜・祝日



長野医療生活協同組合

長野中央病院

〒380-0814 長野市西鶴賀町 1570
TEL.026-234-3211 FAX.026-234-1493
http://www.nagano-chuo-hospital.jp/

